

貸借対照表

(平成30年12月31日現在)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
|----------|----------------|---------------|----------------|
| (資産の部) | | (負債の部) | |
| 流動資産 | 766,476 | 流動負債 | 356,756 |
| 現金及び預金 | 379,684 | 買掛金 | 113,672 |
| 売掛金 | 374,818 | 短期借入金 | 7,501 |
| 仕掛品 | 6,786 | 1年内償還予定の社債 | 34,000 |
| 前渡金 | 2,187 | 1年内返済予定の長期借入金 | 62,296 |
| 前払費用 | 4,667 | 未払金 | 32,929 |
| その他 | 29,044 | 未払法人税等 | 57,621 |
| 貸倒引当金 | 30,711 | 未払消費税等 | 24,667 |
| | | 預り金 | 24,068 |
| 固定資産 | 82,815 | 固定負債 | 183,612 |
| 有形固定資産 | 4,341 | 社債 | 101,000 |
| 建物附属設備 | 764 | 長期借入金 | 82,612 |
| 車輜運搬具 | 0 | | |
| 工具器具備品 | 3,576 | | |
| 無形固定資産 | 2,525 | 負債合計 | 540,368 |
| ソフトウェア | 1,678 | (純資産の部) | |
| 電話加入権 | 847 | 株主資本 | 309,689 |
| 投資その他の資産 | 75,948 | 資本金 | 82,000 |
| 投資有価証券 | 6,392 | 利益剰余金 | 227,689 |
| 保険積立金 | 38,007 | 利益準備金 | 275 |
| 敷金 | 11,659 | その他利益剰余金 | 227,414 |
| 長期貸付金 | 18,246 | 別途積立金 | 2,000 |
| 長期前払費用 | 2,424 | 繰越利益剰余金 | 225,414 |
| 繰延税金資産 | 7,599 | 評価・換算差額等 | 1,746 |
| その他 | 10,574 | その他有価証券評価差額金 | 1,746 |
| 貸倒引当金 | 18,956 | | |
| 繰延資産 | 2,513 | 純資産合計 | 311,436 |
| 社債発行費 | 2,513 | | |
| 資産合計 | 851,804 | 負債・純資産合計 | 851,804 |

(注1) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注2) 有形固定資産減価償却累計額 6,048千円

損 益 計 算 書

(平成30年1月1日から
平成30年12月31日まで)

(単位：千円)

| 科 目 | 金 | 額 |
|-----------------------|--------|-----------|
| 売 上 高 | | 2,163,314 |
| 売 上 原 価 | | 1,752,995 |
| 売 上 総 利 益 | | 410,319 |
| 販売費及び一般管理費 | | 232,180 |
| 営 業 利 益 | | 178,138 |
| 営 業 外 収 益 | | |
| 受 取 利 息 及 び 配 当 金 | 121 | |
| そ の 他 | 30 | 151 |
| 営 業 外 費 用 | | |
| 支 払 利 息 | 4,560 | |
| 貸 倒 引 当 金 繰 入 額 | 23,354 | |
| そ の 他 | 1,827 | 29,742 |
| 経 常 利 益 | | 148,548 |
| 特 別 損 失 | | |
| 会 員 権 評 価 損 | 7,416 | |
| 貸 倒 引 当 金 繰 入 額 | 710 | |
| そ の 他 | 714 | 8,840 |
| 税 引 前 当 期 純 利 益 | | 139,707 |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | | 64,473 |
| 法 人 税 等 調 整 額 | | 8,474 |
| 当 期 純 利 益 | | 83,708 |

(注1) 記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

個別注記表

重要な会計方針

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

その他有価証券

時価のあるもの.....期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

(2) たな卸資産の評価基準および評価方法

仕掛品.....個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく薄価切下げの方法）

2. 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産.....定率法

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

無形固定資産.....定額法

なお、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

3. 繰延資産の処理方法

社債発行費

定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金.....債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

受注制作ソフトウェア開発に係る収益及び費用の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる契約については工事進行基準（ソフトウェア開発の進捗度の見積りは原価比例法）を、その他の契約については工事完成基準を適用しております。

6. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。